

相手の思いを汲み取ることを大切に

社会福祉法人春和会 わんぱく乳児院で里親支援専門相談員として働く
佐々木理恵子さんにお話を伺いました。



佐々木理恵子さん

Rieko Sasaki

ZOOM面会の様子。
画面越しの家族と目が合うように子どもに声かけをしている様子を再現。

◆現在の仕事に出会うまで

私の小さい頃はとても消極的で、特にこれといってやりたいことがありませんでした。そんな中、親戚が集まった時に「小さい子はあなたに一番懐くね」と言われたことがあります。そこから、子どもと関わる仕事がしたいと思うようになりました。学校で保育士の資格を取得、卒業後は保育園に就職し、5年ほど働きました。ですが、園児の親御さんと関わる中で、まだ子育て経験のなかった自分の未熟さを感じ、転職を考えました。やりたいことは何か迷いましたが、漠然と「人の役に立つ仕事がしたい」という気持ちがあり、医療業界を考えました。保育士として働きながら医療事務の資格を取り、転職をして、小児科クリニックに20年ほど勤めました。病気の子どもを先生に診てもらうために来院する方がほとんどですが、その子の世話をする親御さんも身体的にも精神的にも大変です。そのような方に「寝られていますか？」などとかよっとした声かけをするようにしていると、子育てなどの相談をされるようになります。自分自身も結婚、出産、子

育てを経験したので、お話を聞く中で「子どもたちとその親の力になりたい」と思い、相談援助に興味を持ちました。そのため、働きながら社会福祉士の資格を取り、現在は里親支援専門相談員として乳児院で働いています。

乳児院は、さまざまな事情によって家庭で暮らせない0歳から就学前までの子どもたちが生活をする施設です。私は、施設にいる子どもたちが家庭的な環境で成長できるように、児童相談所などの機関と相談をしながら、里親との面会や交流を調整し、里親に委託することを手伝っています。地域の里親家庭も支援していて、定期的に様子を見に行ったり、子育てについての相談を受けたりしています。

育てを経験したので、お話を聞く中で「子どもたちとその親の力になりたい」と思い、相談援助に興味を持ちました。そのため、働きながら社会福祉士の資格を取り、現在は里親支援専門相談員として乳児院で働いています。

◆悩んだ時は「どう乗り越えるか」を常に考えている

里親支援専門相談員として働き始めてまだ1年目なので、戸惑うこともありま

す。「子どもと里親の相性は良いのか」「このまま里親委託をすすめて良いのか」と悩むこともありま

す。「子どもと里親の相性は良いのか」「このまま里親委託をすすめて良いのか」と悩むこともありま

◆相手の思いを汲み取るようになってきた

改めて振り返ると、小さい子どもたちが懐いてくれたのは、その当時は意識していませんでしたが、相手の思いを汲み取るうとして接していたからではないか

す。「子どもと里親の相性は良いのか」「このまま里親委託をすすめて良いのか」と悩むこともありま

す。「子どもと里親の相性は良いのか」「このまま里親委託をすすめて良いのか」と悩むこともありま

す。「子どもと里親の相性は良いのか」「このまま里親委託をすすめて良いのか」と悩むこともありま